

デジタルアーカイブの起源と未来

企業におけるデジタルアーカイブ

セッション② デジタルアーキビスト講座
対面講座(オンライン)
令和7年2月9日(日)

TOPPAN株式会社
大橋 秀亮

企業にとってのデジタルアーカイブとは

- デジタルアーカイブは、一般企業での利用にも注目が集まっています。貴重な資料をデジタル化し、新たな活用の基礎として管理するデジタルアーカイブ、企業においてもさまざまな目的で活用されています。

- ① 社史や理念の浸透
- ② 知財やノウハウの共有
- ③ 業務の効率化
- ④ BCP対応

TOPPAN株式会社：企業にとってのデジタルアーカイブとは？
https://solution.toppan.co.jp/creative/contents/digitalarchive_column04.html



- デジタルアーカイブをすることで売上・利益につながるの？
 - ・インフルエンサーに商品宣伝してもらった方がいいんじゃない
 - ・昔の記録よりも将来の経営戦略の方が大切

- 大切なことはわかるが今する必要はあるの？
 - ・もう少し業績が向上してから検討しよう
 - ・アーカイブよりも設備投資が優先だよ

- ① BCP対応
- ② 業務の効率化
- ③ 知財やノウハウの共有
- ④ 社史や理念の浸透

結論

- 企業におけるデジタルアーカイブは、
図書館・公文書館・博物館・美術館とは異なり、
ステークホルダーのためアーカイブ

代表例

- ① BCP対応
→ 全員： 企業存続のためのデジタルアーカイブ
- ② 業務の効率化
→ 社員・顧客： 満足度向上のデジタルアーカイブ
- ③ 知財やノウハウの共有
→ 株主・社員： 収益向上等のデジタルアーカイブ
- ④ 社史や理念の浸透
→ 社員： 企業での位置確認のデジタルアーカイブ

①BCP(事業継続計画) ② 業務の効率化

電子化されたデータは、保存・複製を繰り返しても劣化することはありません。情報の原資料の保全に役立ちます。

また、検索性に優れている点や、
インターネット上のどこからでも閲覧・保存ができるため、
紙文書などの物理的資料よりも効率的に管理可能です。

もし、災害に見舞われて原資料が破損・散逸する事態になっても、デジタルアーカイブが構築されていれば、普段と変わらず業務を続けることができます。

単純なバックアップはデータの復旧が主目的ですが、アーカイブは普段から網羅的な情報を体系化し活用することを意図して構築されているため、より積極的な事業継続対策といえるでしょう。

通帳等の副印鑑

記号 番号

おなまえ
オオハシ ヒデアキ 様

おところ (郵便番号)

お届け印

株式会社 ゆうちよ銀行
(金融機関コード：9900)

通帳作成地 東京都千代田区霞が関1-3-2
株式会社ゆうちよ銀行

印紙税申告納
付につき麹町
税務署承認済

通帳とお届け印とは、別々に保管してください。

〔通帳やカードの紛失・盗難届のご照会先〕 カード紛失センター 0120-794889

振替口座開設(送金機能) 通常貯金ご利用の上限額 10,000,000円 確認

ご利用
キャッシュカード 代理人カード デビットサービス

2007年10月1日に郵政民営・分社化に伴い日本郵政公社は解散。
郵政三事業を含む全ての業務は日本郵政株式会社およびその下に発足する4つの事業会社(郵便局株式会社、郵便事業株式会社(通称:日本郵便)、株式会社ゆうちよ銀行、株式会社かんぽ生命保険)へ移管・分割。

通帳等の副印鑑

プレスリリース商品・サービス
2013年04月26日

総合口座通帳等の副印鑑の廃止について

株式会社ゆうちょ銀行（東京都千代田区、取締役兼代表執行役社長 井澤 吉幸）は、2013年6月3日（月）から、総合口座通帳等の副印鑑（通帳表紙裏面に貼付しているお届け印）を廃止いたしますので、お知らせいたします。

副印鑑の廃止は、通帳をなくされたり、盗難にあわれた場合に、副印鑑によりお届け印が偽造されることを防ぐために行うものです。通帳に副印鑑がなくても印鑑登録がお済みであれば、これまでどおり全国のゆうちょ銀行・郵便局の貯金窓口での払戻しが可能です。

詳しくは下記をご参照ください。

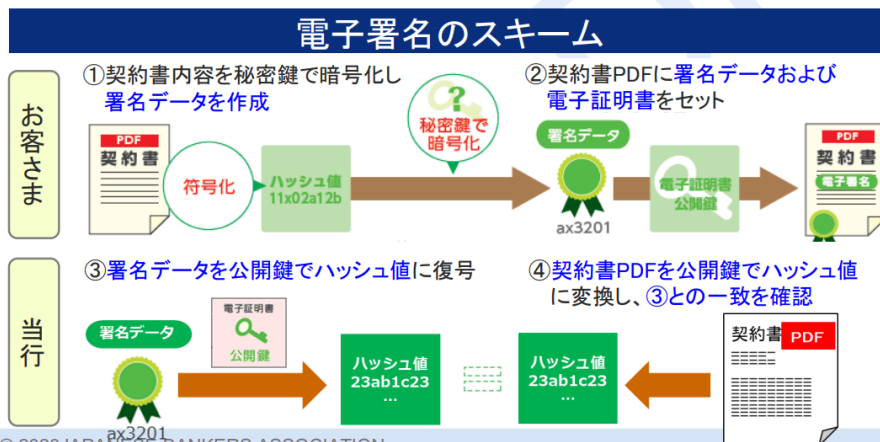
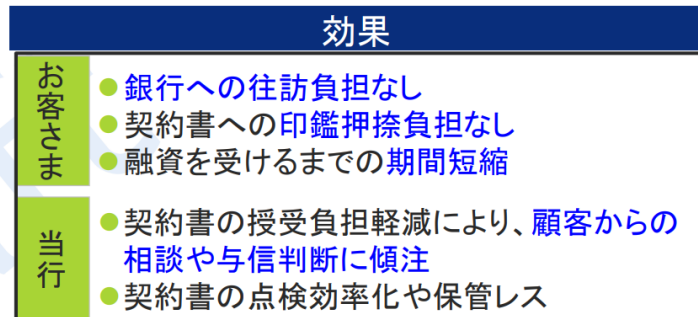
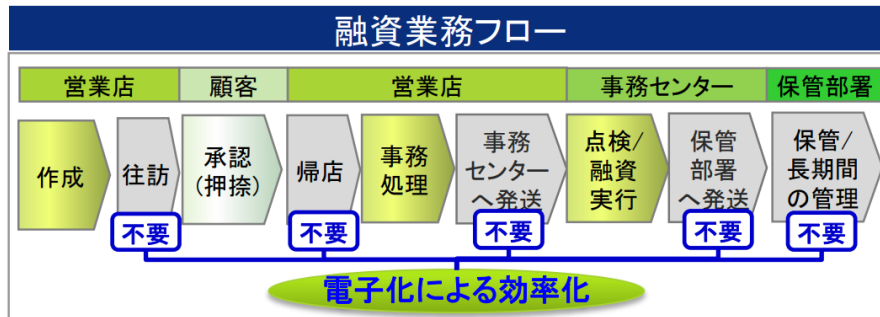
記

- 1 廃止日
2013年6月3日（月）
- 2 廃止の対象となる通帳の種類
 - ・総合口座通帳
 - ・通常貯蓄貯金通帳
 - ・定額・定期貯金証書（通帳式のもの）
 - ・国債等振替口座加入通帳
- 3 廃止に伴う窓口でのお取り扱い
 - (1)通帳発行時のお取り扱い
新規に口座を開設いただく際や印鑑登録がお済みの通帳を繰り越す際、新たに発行する通帳への副印鑑の貼付は行いません。
 - (2)現在お持ちの通帳のお取り扱い
副印鑑が貼られている通帳をお持ちの場合、印鑑登録がお済みであることを確認した上で副印鑑をお取り外しいたします。

銀行界における書面・押印・対面手続の見直しについて

(融資) 融資電子契約サービス

- 電子署名法準拠のリモート型電子署名を活用し、融資の契約プロセスを電子化
- お客さまは銀行への往訪や書類への記入・押捺負担なく契約締結が可能

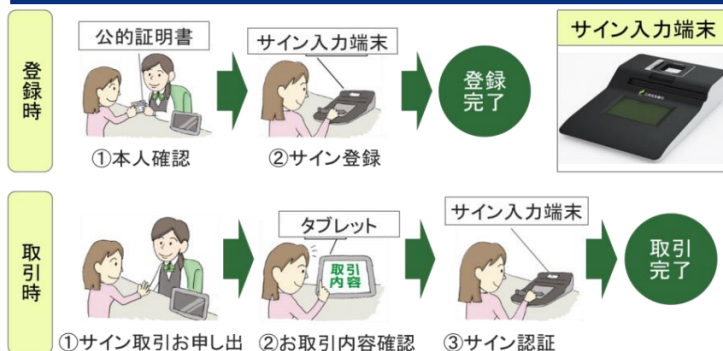


銀行界における書面・押印・対面手続の見直しについて

(押捺に代わる本人意思確認) 電子サインサービスについて

- お客さまのサインを電子データ(座標・方向・筆圧等・時系列の筆運び)で登録
- 取引時のサインの電子データを照合し、本人確認と取引意思確認を実施

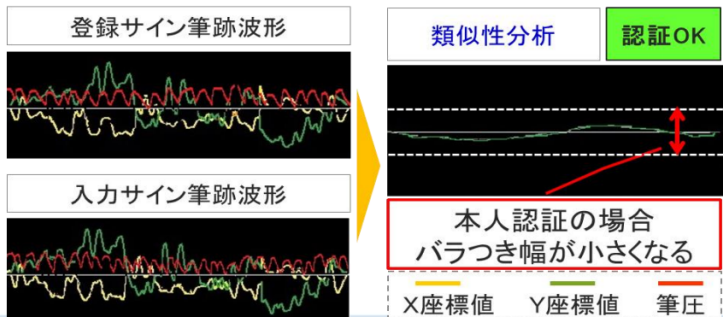
電子サインサービスの取扱フロー



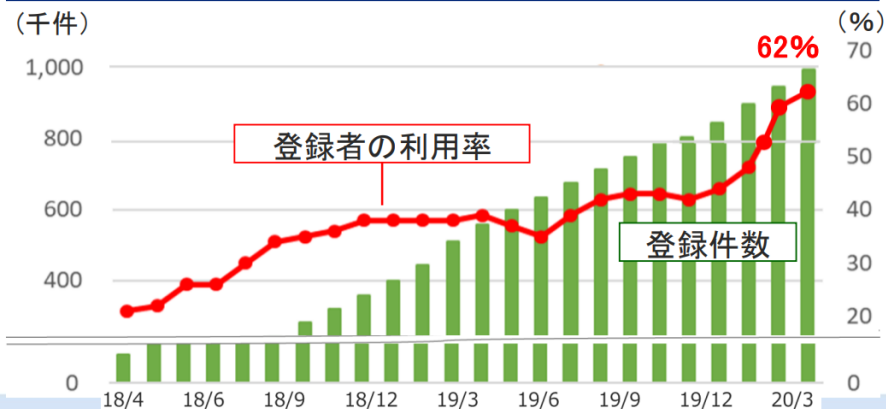
効果

- お客さま**
- 印鑑持参・押捺負担なし
 - 印鑑の持ち忘れによる取引機会の逸失なし
 - 紙書類への記入負担なし
- 当行**
- 店頭取引におけるペーパーレス化の進展
 - 事務プロセスの簡素化
 - 紙書類の保存負担軽減

サイン照合イメージ



【図表】登録率・利用率



③ 知財やノウハウの共有

デジタルアーカイブは、社内に散逸するさまざまな資料をデジタル情報に落とし込み、データベースで整理・保管して活用できるようにする仕組みです。

いつでも・誰でも・どこからでもアクセスして情報共有できるため、社内の業務効率化に役立ちます。

また、データとなった情報は長期にわたり保存・活用できるため、ノウハウを次世代へ受け継いでいくことも容易です。

さらには、それまで属人的な暗黙知として継承が困難とされた「熟練の技」や「経験」、「勘」なども、音声や映像など多様な形で記録に残し、形式知化されたデータにすることで、蓄積・活用の拡大ができます。

アーカイブされたデジタルデータは、横断的な検索で効率よく情報収集することができます。自力では探しきれないような関連情報も参照できるようになり、新たな企画・開発を促す苗床としても期待されます。

実証事業の目的

国内外の産業構造が急速に変化する中、変化の潮流や市場のプレイヤーが抱える課題を察知し、「現場」に即した経済産業政策を立案・実行するためには、それぞれの職員がどのような事業者・有識者と情報交換・意見交換等で接したか省内で共有し、別の職員が自らの関心事項を踏まえ、さらに情報交換・意見交換を重ねることが重要です。とりわけ、地方支分部局の職員が得た名刺を省内で共有し、「現場」との繋がりを可視化することにより、「現場」の声を政策立案に反映させることが一層求められております。

令和2年度は経済産業省本省職員4,000名を対象に事業を遂行しましたが、令和3年度は利用対象を本省に留まらず地方支分部局にも拡大し、地方支分部局の人脈を本省と共有することで、業務においてどのような効果があるか実証し、地方支分部局との連携を一層進めていくための方策について検討を行いました。

クラウド型名刺管理・共有サービス

期待する効果①

名刺の保管スペースの削減/紛失リスクを減らしよりセキュアな状態に

1時間で約1,000枚スキャンすることができるため、手元にある膨大な量の名刺をスピーディーにデータ化し、その後紙名刺は破棄することで**保管スペースの削減**にも繋がられる。デジタル化することで持ち運ぶ必要性が無くなり、紛失リスクを減らすことが出来るほか、検索性が上がるため**名刺を探すのにかかっていた時間を削減**することもできる。

紙の名刺をスキャン



オンライン名刺交換



翌営業日中に
データ化(*)



精度**99.9%**のデータ化

(*)1アカウントあたり、
20枚/日まで翌営業日中にデータ化しております

ロッカーに保管していた名刺を
クラウドで管理することで
省スペース化を実現



クラウド型名刺管理・共有サービス

期待する効果②

民間企業に関する情報収集の効率化（企業のニュース、財務・業績、分析レポートなど）

名刺登録している企業会社情報（関連ニュース、財務・業績、分析レポートなど）がSansanを経由して入手できるなど、ヒアリング前に実施する基本的な情報収集の一端を担える。また、訪問先企業の地図や基本情報を訪問途中にも閲覧できるため、急な対応が求められても臨機応変に対応が可能。



分析レポート（決算発表より自動生成）



外部ソース等を元に異動情報を通知



情報をすぐに探せる

クラウド型名刺管理・共有サービス

期待する効果③

リモートワークにおけるオンライン名刺機能

オンライン名刺の機能があり、対面で会わなくても名刺交換が可能。ウェブ会議の際に、自分の名刺のURLを送ることで相手方が自分の名刺データを入手できる。メールの署名欄に、自分のオンライン名刺のURLを記載しておくとも便利。（相手方がSansanユーザーでなくても取得可能）



初回のみ 相手に送りたい名刺を
スキャンして登録



スキャナ/アプリから登録可能

1 名刺送付用のURLを
発行し相手へ送る



URL : *****

オンライン会議のチャットやメールで送付

2 相手が名刺を受け取ると同時に
名刺を送り返してもらう



どなたでも名刺情報の登録と送り返しが可能

④ 社史や理念の浸透

企業の歴史や経営理念、行動指針などの社内文化をアーカイブに残し、世代を超えて共有することも可能です。

たとえば、創業時から現在までの写真や映像、歴代トップやゆかりの人の書簡、社内報、商品開発記録、販促のポスターやチラシ、テレビ・ラジオのCMなど、創業から培ってきたさまざまな物事をデータ化し、活用することができます。

企業ブランディング

高品質のデジタルデータになった情報は、加工を施した複製を作り、さまざまな形態へアウトプットして**二次活用**することができます。ひとつのコンテンツを共通のデザインにして、紙やその他の素材へ印刷して制作物を展開したり、Webサイト、電子書籍、静止画、動画などのデジタルコンテンツにしたりと、複数のメディアでアーカイブを体系的に活用することにより、企業ブランディングの強化につながります。

稲盛和夫アーカイブ

稲盛和夫 OFFICIAL SITE

日本語 English 中文 한국어 検索

稲盛和夫について 稲盛和夫アーカイブ 稲盛和夫研究 稲盛ライブラリー

稲盛和夫アーカイブ

TOP > 稲盛和夫アーカイブ

- 

講演
- 

寄稿・対談
- 

エピソード
- 

映像
- 

稲盛デジタル図書館
- 

国立国会図書館公開資料

稲盛ライブラリー

稲盛ライブラリー [公式サイトへ戻る](#)

[日本語](#) [English](#) [中文](#) [한국어](#)



[施設紹介](#)

[利用案内](#)

[企画展](#)

[Facebookアーカイブ](#)

[ごあいさつ](#)

[フロア案内](#)

[バーチャル見学案内](#)



ごあいさつ

「稲盛ライブラリー」は、京セラグループが21世紀においてもさらに成長し続ける企業でありたいとの思いを込め、創業者 稲盛和夫の人生哲学、経営哲学である京セラフィロソフィを学び、継承することを目的に2013年に開設いたしました。

1959年に稲盛が徒手空拳で創業した京セラ株式会社が今日まで発展し続けてこられたのは、全従業員が京セラフィロソフィを判断の基準に据え、行動規範として共有し、ひたむきな努力を続けてきたからです。

当社は今後とも京セラフィロソフィを根幹に据えた企業経営を推進し、全従業員が京セラフィロソフィを実践することで、将来にわたって成長し、社会の期待に応え続ける企業でありたいと考えております。

この「稲盛ライブラリー」は、稲盛の人生哲学、経営哲学を中心に、技術者、経営者としての足跡や様々な社会活動を展示し、稲盛の言葉や一筋に貫いてきた考え方に触れることで、京セラフィロソフィの真髄を理解していただけるようにしました。

「稲盛ライブラリー」は京セラフィロソフィの継承を目的に開設するものですが、広く一般の皆様にも公開させていただくことといたしました。この「稲盛ライブラリー」が、ご来館の皆様にとりましても豊かな学びの場となりますことを心より祈念しております。

Panasonic Group

グループ企業情報 | ニュース | 投資家情報 | ブランド | テクノロジー | デザイン | サステナビリティ | 採用情報

グループ企業情報 | グループCEOメッセージ | 経営基本方針 | コンプライアンス行動基準 | 調達活動 | DXの取り組み | 知的財産 | 会社情報 |
グループ体制・関係会社 | 製品・ソリューション | 体験施設・展示会 | スポンサー活動・スポーツ | 歴史

グループ体制・関係会社

競争力を磨き上げる「事業会社制」

パナソニックグループは、持株会社であるパナソニック ホールディングス株式会社と8つの事業会社および国内外の関係会社で構成されています。事業会社がそれぞれ向き合う領域において競争力を高めていくこの体制を、私たちは「事業会社制」としています。事業会社の強みを磨き上げ、日々新たな挑戦を重ねることによって、社会やお客様へのお役立ちを果たしていきます。

パナソニック ホールディングス株式会社



パナソニック(旧松下電器産業)における企業アーカイブの取り組みは、1961年から開始されました。1968年には50周年を記念した「松下幸之助歴史館」を設立。1976年には、社長直轄の恒久的部門として社史室も設置され、創業者事業観の探究、創業者精神の周知、社史に関する史料の保存管理などの取り組みが進められてきました。

2018年に、創業100周年を記念し「パナソニックミュージアム」が開館。

史料のデジタルアーカイブ化が進み、企画展やオンライン番組なども展開しています。

トッパンのあゆみ

歴史映像「TOPPAN CHRONICLE 120 ～社会的価値創造の歴史～」

本映像は、トッパンの創業から120年の歩みを、様々な社会的課題に立ち向かった姿と社会的価値創造企業を目指した企業精神を主軸にして制作したものです。ぜひご覧ください。

トッパンは、社会的価値を創造するリーディングカンパニーを目指すとともに、これからも持続可能な社会の実現に貢献していきます。



[尺 17分]

創業の時代

1880年代、大蔵省印刷局（現 独立行政法人国立印刷局）で、技術指導にあっていた御雇外国人のエドアルド・キヨッソーネは、多くの技術者を育てるかたわら、細紋彫刻機の操作、エルヘート凸版法、すかし模様をつくる版面製造法など、日本の紙幣印刷技術の向上に大きな功績を残していました。

キヨッソーネの下で最新の印刷技術を学び、その後凸版印刷の創始者となる木村延吉と降矢銀次郎の二人の技術者は、当時最先端の印刷技術である「エルヘート凸版法」を基礎に、日本の印刷業界のさらなる発展を考えていました。しかし、受注を見込んでいた有価証券などの高級印刷物は、不況の折から需要はわずかで、事業を軌道に乗せることは困難を極めました。



エドアルド・キヨッソーネ



エルヘート凸版法の銅版



木村延吉



降矢銀次郎



伊藤貴志



河合辰太郎
(初代社長)



三輪信次郎

そのころ、日本のたばこ業界では民営のたばこ会社であった村井兄弟商会と岩谷商会が熾烈な販売競争を繰り広げていました。ここにビジネスの可能性を見出した木村と降矢は、村井兄弟商会がアメリカ製の最新印刷機を導入するという話を聞くと、すぐに岩谷商会へ「エルヘート凸版法」による外箱印刷の提案を持ち込みました。

村井兄弟商会の設備増強に危機感を抱いていた岩谷商会も精巧な「エルヘート凸版法」による製品に魅力を感じていました。こうして木村と降矢は印刷局を離れてから8年目にして、ようやく「エルヘート凸版法」による恒常的な受注先を獲得したのでした。

その後、伊藤貴志、河合辰太郎（初代社長）、三輪信次郎の3名の出資者を加えた5人の創業者により、1900年1月17日、東京市下谷区二長町1番地（現東京都台東区台東一丁目）に「凸版印刷合資会社」が誕生しました。

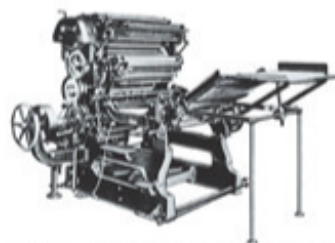
オフセット印刷機の登場と設備導入

1908年、日本に初めてオフセット印刷機を紹介したのは、アメリカ・サンフランシスコの石版業者シュミット・リソグラフ社のマックス・シュミット社長でした。これを契機に大蔵省印刷局を中心にオフセット印刷研究の気運が高まっていました。

1911年、新技術のオフセット印刷機の将来性をいち早く見抜いた当社支配人の井上源之丞は、詳細な計画書を作成し、オフセット印刷機の設備導入を経営陣に提案しました。しかし、苦しい経営状況のさなか、河合社長をはじめ経営陣からの賛同を得ることはできませんでした。



井上源之丞と愛用の自転車



オフセット印刷合名会社に導入したハリス社製四六半裁オフセット輪転印刷機

1914年、諦めることのなかった井上は、オフセット印刷に熱意をもつ同志の市田幸四郎、中西虎之助に協力して、新鋭のオフセット印刷機を導入した「オフセット印刷合名会社」の設立に参画し、営業面から支援しました。同社の製品の出来栄えはすばらしく、驚異的な印刷速度もオフセット印刷の評価を高め、その後も同社は順調に成長を続けました。

やがて社内の大勢もオフセット印刷合名会社との合併に傾き、1917年、臨時株主総会によりオフセット印刷合名会社の買収が可決されました。

企業にとってのデジタルアーカイブとは

- デジタルアーカイブは、一般企業での利用にも注目が集まっています。貴重な資料をデジタル化し、新たな活用の基礎として管理するデジタルアーカイブ、企業においてもさまざまな目的で活用されています。

- ① 社史や理念の浸透
- ② 知財やノウハウの共有
- ③ 業務の効率化
- ④ BCP対応

TOPPAN株式会社：企業にとってのデジタルアーカイブとは？
https://solution.toppan.co.jp/creative/contents/digitalarchive_column04.html



- デジタルアーカイブをすることで売上・利益につながるの？
 - ・インフルエンサーに商品宣伝してもらった方がいいんじゃない
 - ・昔の記録よりも将来の経営戦略の方が大切

- 大切なことはわかるが今する必要はあるの？
 - ・もう少し業績が向上してから検討しよう
 - ・アーカイブよりも設備投資が優先だよ


- ① BCP対応
- ② 業務の効率化
- ③ 知財やノウハウの共有
- ④ 社史や理念の浸透

- 企業におけるデジタルアーカイブは、
図書館・公文書館・博物館・美術館とは異なり、
ステークホルダーのためアーカイブ

代表例

- ① BCP対応
→ 全員： 企業存続のためのデジタルアーカイブ
- ② 業務の効率化
→ 社員・顧客： 満足度向上のデジタルアーカイブ
- ③ 知財やノウハウの共有
→ 株主・社員： 収益向上等のデジタルアーカイブ
- ④ 社史や理念の浸透
→ 社員： 企業での位置確認のデジタルアーカイブ

これより後は時間が余れば説明します



データ化から利活用までをワンストップでご提供
「高精細デジタルアーカイブサービス」

文化財・貴重資料の高精細デジタル化による 情報資産化を実現

データ化から利活用までをワンストップで実現。
実績による安心、セキュリティによる安全、作品づくりによる感動をご提供します。

神社仏閣、企業や博物館、学校、自治体などで
こんな課題をお持ちの方へ

- 貴重な資料や写真の劣化に対応したい
- 保有している文化財があり、災害に備えたい
- 資料を活用し、社内外にも発信したい
- 歴史的建造物の修理や解体にあたり、実物の記録を残したい
- 資料データを閲覧できるようにしたい

アーカイブの方針構築からデジタル化、データベース構築、史資料編纂、映像制作、複製・復元、展示計画まで全ての工程を総合プロデュース

歴史資料は単なる記録に留まらない、後世に伝承すべき貴重な情報資産です。

TOPPANは神社仏閣、企業や博物館、学校、自治体を持つ文化財、貴重資料の利活用促進を図ることで顧客満足度、組織、企業価値向上を図ってまいります。

アーカイブの方針策定からデジタル化、データベース構築、史資料編纂、映像制作、複製・復元、展示計画まで、全ての工程の総合プロデュースがワンストップで可能です。

① 調査・設計

所蔵品の状態や、目録など既存情報の現状調査と、データの活用目的などのヒアリングを通じて、最適なアーカイブデータの体系を設計いたします。

② デジタル化

多くの文化財取り扱い経験を積んだスタッフにより「高精度・高品質」「高い安全性」を保証したデータ取得を行います。さらに、さまざまな計測を同時に行うことで実施の高効率化を図ります。

③ DB 構築・管理

東博の提唱する「ミュージアム資料情報構造化モデル」をベースに必要な応じた情報の分類項目を設計しデータベースの構築を行います。

④ データの活用

アーカイブデータを活用したデジタルコンテンツや、情報公開システムの開発、印刷技術をベースにした高い再現技術に基づくグッズの開発を行います。

現物保管

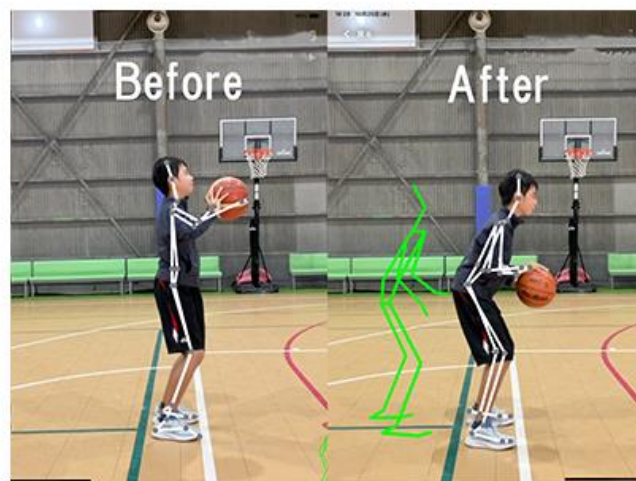
デジタル化が終了した資料は、ご要望に応じて中性紙の保存箱などに納めて保管します。

VR作品『洛中洛外図屏風 舟木本』



<https://www.youtube.com/watch?v=fg5o5zEQgUo&list=PLxP-Hd5WBOLDiGdnpRyTmmDiwlRivEg61&index=4>

科学的根拠に基づくお手本動作により指導ポイントを可視化



「Loop Training System for部話」利用シーン
©TOPPAN Inc.

印刷博物館 デジタル文化財ミュージアム KOISHIKAWA CROSS®



お問い合わせ・よくあるご質問 / English Site

事前予約

総合案内 博物館の理念 展示・コレクション 印刷体験 教育支援 | アクセス |

| | | | |
|------|---|----|---|
| 名称 | 印刷博物館 (いんさつはくぶつかん) | 料金 | [入場料] 一般：400円 (350円) 学生：200円 (150円) 高校生：100円 (50円) 中学生以下および70歳以上の方無料 ()内は20名以上の団体料金 |
| 所在地 | 〒112-8531 東京都文京区水道1丁目3番3号 TOPPAN小石川 本社ビル 詳細地図はこちら (マピオン提供) | | |
| TEL | 03-5840-2300 (代) | | [デジタル文化財ミュージアム KOISHIKAWA CROSS観覧料] 一般 (高校生以上)：500円 中学生以下および70歳以上の方無料 |
| FAX | 03-5840-1567 | | |
| 開館時間 | 10時～18時 (入場は17時30分まで) | | |
| 休館日 | 毎週月曜日 (ただし祝日・振替休日の場合は翌日) / 年末年始 / 展示替え期間 ※詳細は 展示予定スケジュール をご参照ください。 | | 企画展の開催時には、入場料が変更になります。くわしくは 最新展示情報 をご覧ください。なお、常設展へのご入場料金は企画展入場料に含まれます。企画展開催期間中、常設展のみをご覧ください。ご了承ください。 ※5月5日 (こどもの日)、11月3日 (文化の日) は入場料が無料となります。 ※障がい者手帳等をお持ちの方、および付き添いの方は無料となります。 |

<https://www.printing-museum.org/>
<https://www.youtube.com/watch?v=YMQoPbUnW4s&list=PLxP-Hd5WBOLDiGdnpRyTmmDiwlRivEg61&index=2>